

第3回 体文協杯 北海道ジュニアラグビー選手権大会

実 施 要 領

- 目 的 大会実施によりラグビー競技の健全な普及・発展とタグラグビーやラグビーフットボールに対する正しい理解や技術向上を図るとともに、子供の心身の健全な育成に寄与することを目的とする。
- 主 催 (財)北海道体育文化協会
北海道ラグビーフットボール協会札幌支部
- 主 管 北海道ラグビーフットボール協会札幌支部 普及育成委員会
- 協 賛 (株)藤井運道具店、北海道コカコーラボトリング株式会社、
パシフィックベンディング北海道株式会社、北海道ペプシコーラ販売株式会社、
北海道ビバレッジサービス株式会社 (株)はやし 他
- 期 日 平成21年8月1日(土)・8月2日(日)
- 会 場 野幌総合運動公園ラグビー場 (〒069-0832 江別市西野幌481番地)
- 競技規則 日本ラグビーフットボール協会 平成21年度制定のミニラグビー、ジュニアラグビー、タグラグビーの競技規則による。
- 参加資格 (1)平成21年に小学校及び中学校に在学している生徒。但しスクール生及び中学校部活動生徒にあっては日本協会の登録規約に準じていること。また、二つのチームにまたがっての出場はできない。
(2)参加選手は各自もしくは各チームでスポーツ傷害保険に加入していること。
(3)タグラグビーは小学校4年生～6年生、ミニラグビーは小学生で低学年・中学年・高学年の別、ジュニアラグビーは中学生の各種別チームとする。
(4)参加チームは成人が必ず帯同し、当該チームを指導掌握し責任を負うことのできる者であること。
(5)大会規定のチーム人数に満たなくても合同チームとして参加することができる。但し合同チームは主催者側で決める。
- 競技方法 タグ・ミニ・ジュニアのそれぞれの参加申込みチーム数および選手人数により、後日タイムスケジュールと共に決定する。

安全対策 試合中の傷害については、応急の医療処置は主管団体が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。

表彰 種別ごとに優勝、準優勝を表彰する。また参加者全員に参加賞を付与する。

提出書類 大会参加申込書（別紙）に所定事項を記入の上、7月10日（厳守）までに下記宛に送付のこと。FAXでも可。

申込み先 〒069-0832 江別市西野幌481番地
道立野幌総合運動公園事務所
事業担当 佐藤 伸洋 宛
Tel 011-384-2166 Fax 011-384-1587

競技に関する問合せ先

〒064-0952 札幌市中央区宮の森2条10丁目6-12
北海道ラグビーフットボール協会札幌支部普及育成委員会
普及育成委員長 佐藤 孝文 宛
Fax 011-640-3434 E-Mail sato-sapporo@nifty.com

参加料 ジュニアラグビー 2,000円（大会日当日持参のこと）
タグラグビー 1,000円（大会日当日持参のこと）

組合せ 主催者側で決める。

開閉会式 別途定める。但し開会式は8月2日（土）13時、閉会式は全ての競技が終わった時刻とする。

その他 タイムスケジュールはじめ、組合せ等諸連絡は別に出場チームに連絡する。

北海道体育文化協会杯 北海道ジュニアラグビー選手権大会

本大会は、平成19年度から、北海道が運営する野幌運動公園の指定管理者である、財団法人北海道体育文化協会の協力を得て実施しています。本年度も、8月1日から2日に亘って、野幌運動公園ラグビー場で開催されます。

野幌運動公園は、札幌の中心から東に15km、江別市街地の南東約5km、野幌森林公園に隣接し、総面積64.1haもの広大な園内に、プールを含むアリーナをはじめ、各種運動施設が配置されている、道民の大規模なスポーツレクリエーションの拠点です。

この公園は、平成元年に開催された第44回国民体育大会「はまなす国体」のメイン会場として計画され、昭和59年度にラグビー場2面、昭和61年度にプール棟、テニスコート、ホッケー場、昭和63年度にメインアリーナ、サブアリーナ、平成元年度に軟式野球場、平成3年度に硬式野球場、合宿所、平成5年度に陸上競技場がそれぞれに完成し、昭和63年度の高校総体や、「はまなす国体」など、全国的なスポーツイベントはもとより、全国規模の各種競技大会、さらには道民の身近なスポーツ施設として利用されています。

ラグビー場は広大な敷地に2面の芝生グラウンドが整備されており、道央圏の主要な大会をはじめ合宿や練習に利用できる身近で素晴らしい施設です。

体育文化協会では、事業の一貫として特にジュニアの育成という観点から、各種スポーツのジュニア大会等の支援を積極的に行っている折、野幌運動公園で毎週のように行われているジュニアのラグビー交流戦を見かけた担当者からの依頼で本大会の開催が検討され、一昨年より開催の運びとなりました。タグラグビー、ミニ・ジュニアラグビーそして中学校やスクール等の区分を問わず参加の募集を行ったところ、全道から参加の希望が相次ぎ、昨年は約400名の選手が参加する大きな大会となりました。

その後、北海道体育文化協会と北海道ラグビーフットボール協会は、ラグビー場の芝生再生について議論を重ね、昨年度、見事に芝生を再生し、現在は2面のグラウンドを毎週利用しながら素晴らしいコンディションの天然芝を維持しています。施設監理者とラグビー選手が一体となって取り組んだ、素晴らしいプロジェクトであったことをここに報告致します。

本大会は、北海道体育文化協会のご担当の皆様のご勢力的な大会の準備や支援があって、見事な運営が可能となっています。今後とも協力を強化し、こうした大会運営のみならず、ジュニアのスポーツ育成や普及を含めて、様々な課題に取り組んでいきたいと考えております。

[平成21年7月 北海道ラグビーフットボール協会 札幌支部]



昨年度の大会の様子

特集！ 野幌ラグビーグラウンド再生プロジェクト

野幌RG芝生再生までの流れ

今回会場となる野幌ラグビーグラウンドは、昨年とは違い青々とした芝生が蘇りました。

実は、その裏には様々な人々の思いの結末があり、「再生」されたのです。

07年シーズンオフ

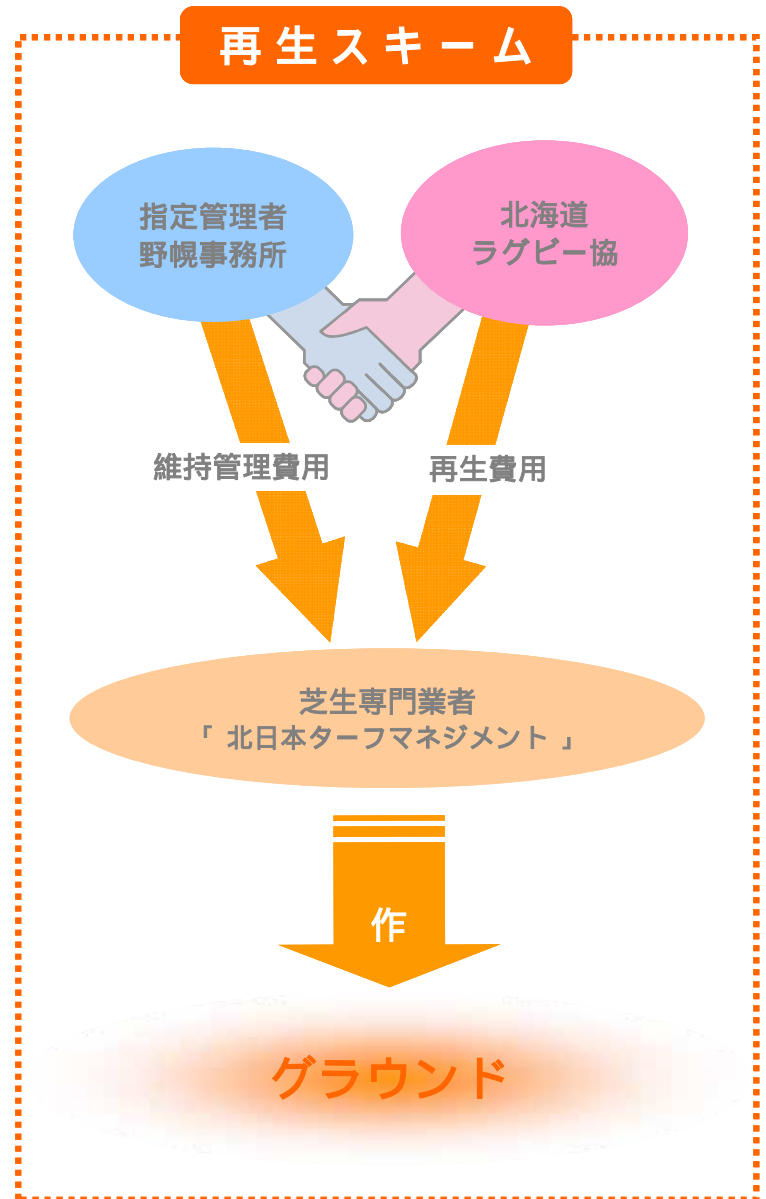
札幌支部に所属する一部のラグーマンたちが、予算削減により荒れ果てていくラグビーの聖地「野幌ラグビーグラウンド」を憂い、立ち上がることを決意。

再生コンセプト

それは「子供たちに芝生のグラウンドを残そう！」。

そして、その言葉に奮い集まったラグーマン一人一人が再生資金を出し合い、野幌公園事務所と協力し、再生計画を実行したのです。それは全国的にみても稀なケース、「プレーヤーたちと行政が手を結んだ」計画のスタートでした。

また、今回の計画に欠かせない存在はもう一つ、"芝生専門のプロ集団"「北日本ターフマネジメント」。両団体の熱い思いに賛同し、協力を約束。子供たちのこの大会までに！と神がかり的なスケジュールで見事再生させてくれ



芝生専門企業
株式会社 北日本ターフマネジメント

【実績】
・札幌ドーム

これが「 Before - After 」だ !!

再生前の荒れたグラウンド



再生後の青々とした素晴らしいグラウンド

